



新宿区指定有形文化財 古文書

亮朝院文書

所在地 新宿区西早稲田三丁目十六番二十四号
指定年月日 平成十二年三月二日

如意山亮朝院に伝来する古文書類で、亮朝院の開基である能勢の局の書状など年代不明のものを除くと、寛永二年（一六二五）の日閑筆「疫神遠離秘法」を最古とし、昭和十五年の「福寿海無量」まで約四百件に及ぶ区内最大規模の寺院文書である。

内容は、江戸後期から明治時代のもものが多く、亮朝院の由緒や経営、建物や境内の普請工事などに関するものが中心である。

亮朝院は、江戸前期に徳川家の庇護のもと、その祈禱所として成立したが、明治以後は一般檀徒の寺となった。文書からは、このような寺の歴史の変遷を知ることができる。戸塚地区に残る数少ない古文書として貴重である。※文化財保存上、通常は非公開です。



新宿区登録有形文化財 工芸品

梵鐘

登録年月日 平成十二年三月二日

江戸鋳物師の鑄造技術が極めて高かった元禄十五年（一七〇二）に造

られた銅造の梵鐘。総高一四一・五センチ。銘文により、浅草権兵衛が発起人となり、市谷田町講・関口講などの講中のほか、五〇六名の武士や庶民が鑄造に寄与していることがわかる。
※文化財管理上、通常は非公開です。



平成十二年三月



新宿区教育委員会